

(資料3)

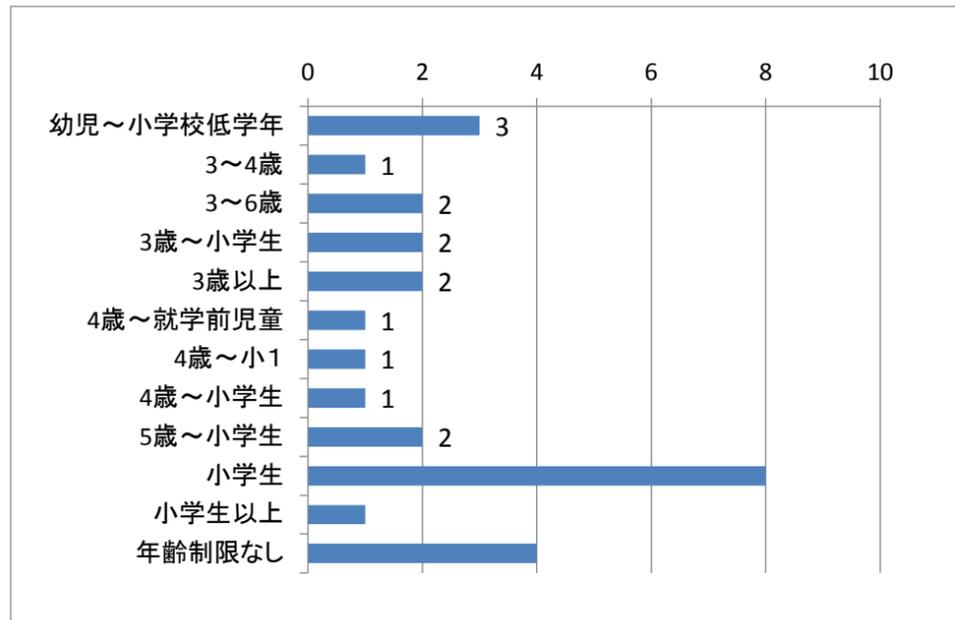
国際子ども図書館 平成25年度児童サービスワークショップ
事前アンケート集計結果(概要) 2014/3/4(火)

1. 貴館でのおはなし会について教えてください。

(1)対象年齢

幼児	1	館
幼児～小学生	2	館
幼児～小学校低学年	3	館
3～4歳	1	館
3～6歳	2	館
3歳～小学生	2	館
3歳以上	2	館
4歳～就学前児童	1	館
4歳～小1	1	館
4歳～小学生	1	館
5歳～小学生	2	館
小学生	8	館
小学生以上	1	館
年齢制限なし	4	館

※「年齢制限なし」には、「子どもから大人まで」の回答も

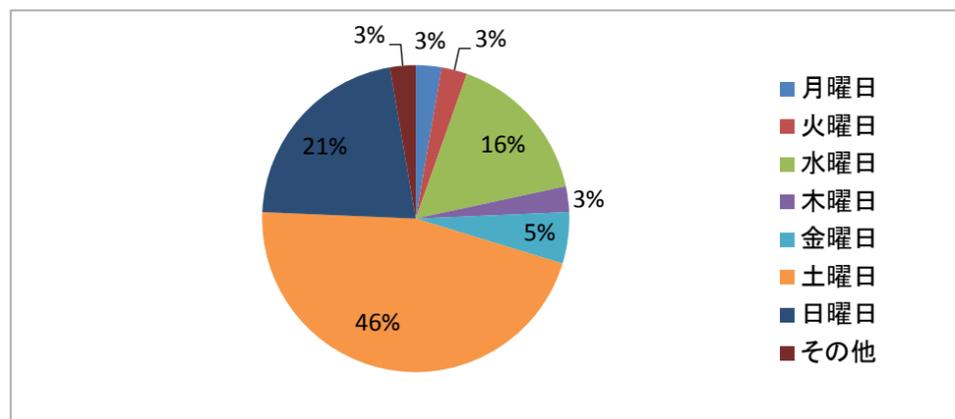


(2)曜日 ※複数回答

月曜日	1	館
火曜日	1	館
水曜日	6	館
木曜日	1	館
金曜日	2	館
土曜日	17	館
日曜日	8	館
その他	1	館

「その他」内訳

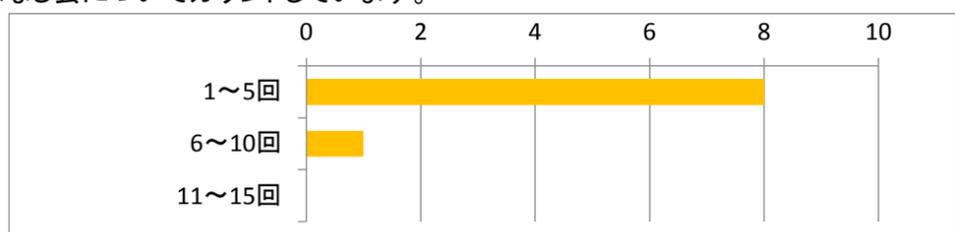
- ・夏休み中の平日:1館
- ・四季毎に:1館
- ・春休み:1館
- ・祝日:1館



(3)回数 ※開催回数は、月1回以上開催されているおはなし会についてカウントしています。

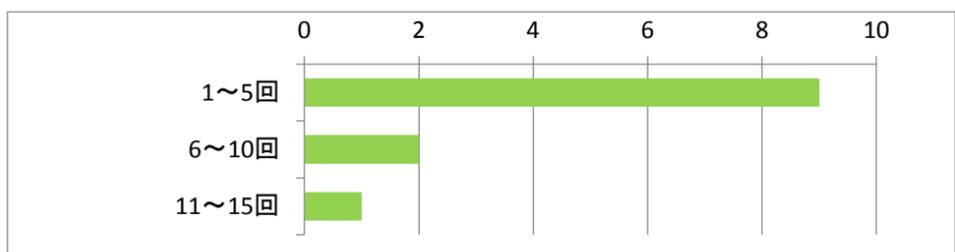
幼児(小学生未満)

1～5回	8	館
6～10回	1	館
11～15回	0	館



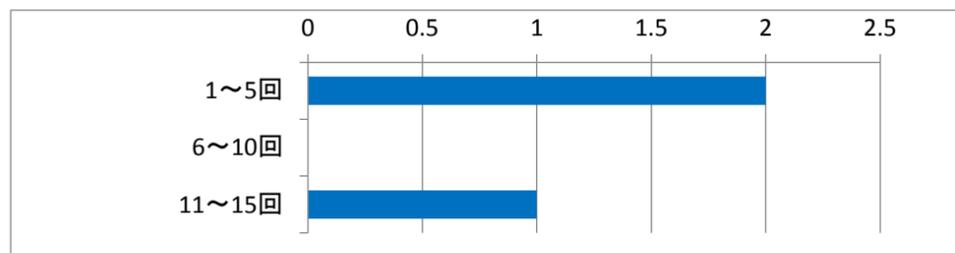
小学生以上

1～5回	9	館
6～10回	2	館
11～15回	1	館



年齢制限なし

1～5回	2	館
6～10回	0	館
11～15回	1	館

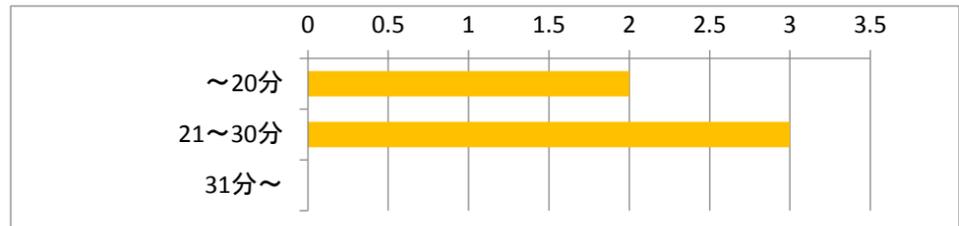


※月1回未満のおはなし会

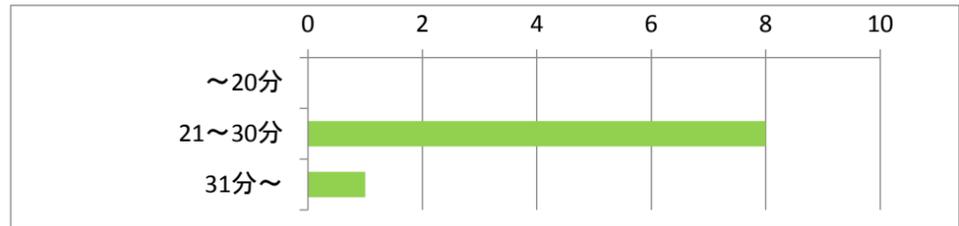
- ・小学生を対象に年に4回
- ・4歳～小学生を対象に四季毎に1回／春休みに1回
- ・幼児～小学生を対象に第5水曜日・年に4回／3・5・7・12月:年に8回

(4)所要時間

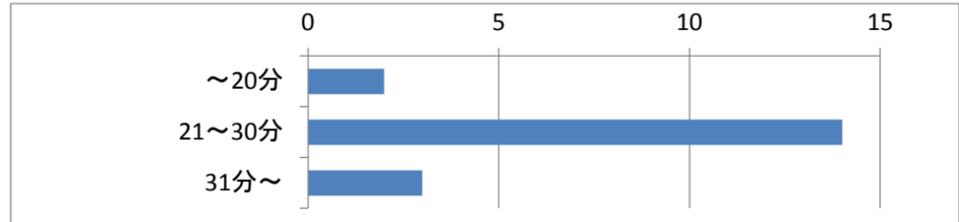
幼児(小学生未満)		
～20分	2	館
21～30分	3	館
31分～	0	館



小学生以上		
～20分	0	館
21～30分	8	館
31分～	1	館

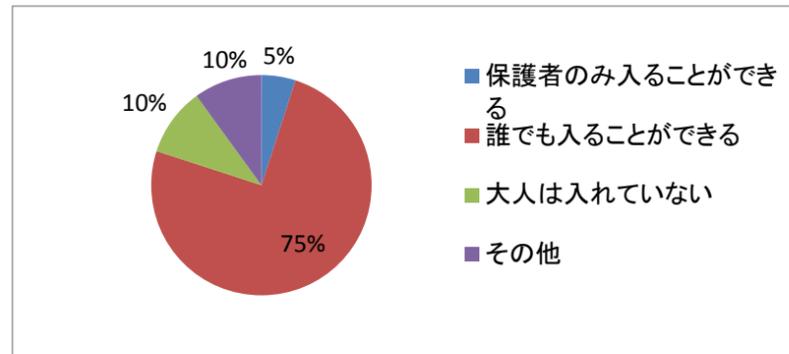


年齢制限なし		
～20分	2	館
21～30分	14	館
31分～	3	館



2. おはなし会には、大人も入ることができますか。

保護者のみ入ることができる	1	館
誰でも入ることができる	15	館
大人は入れていない	2	館
その他	2	館

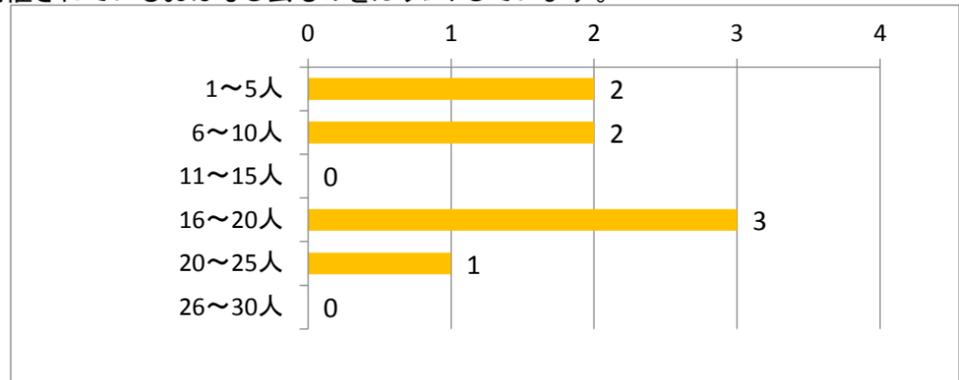


「その他」内訳

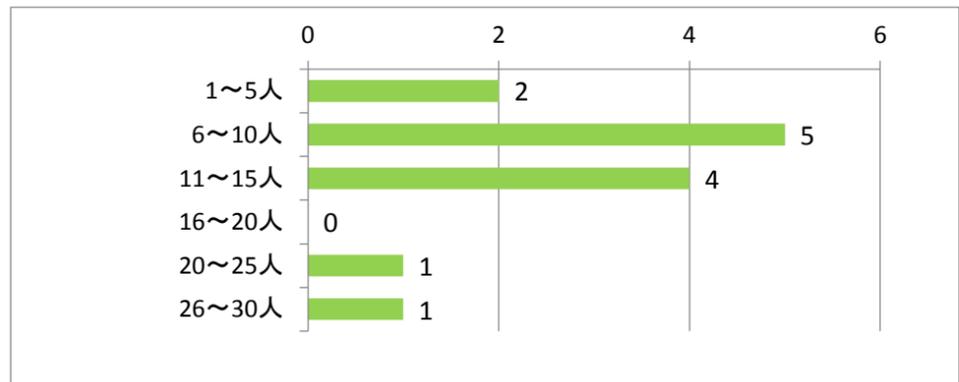
- ・おはなし会の種類による(全部の場合あり):1館
- ・3～4歳児の会は保護者を入れる、5歳児以上の会には入れない:1館

3. 参加平均人数 ※平均人数については、月1回以上開催されているおはなし会ものをカウントしています。

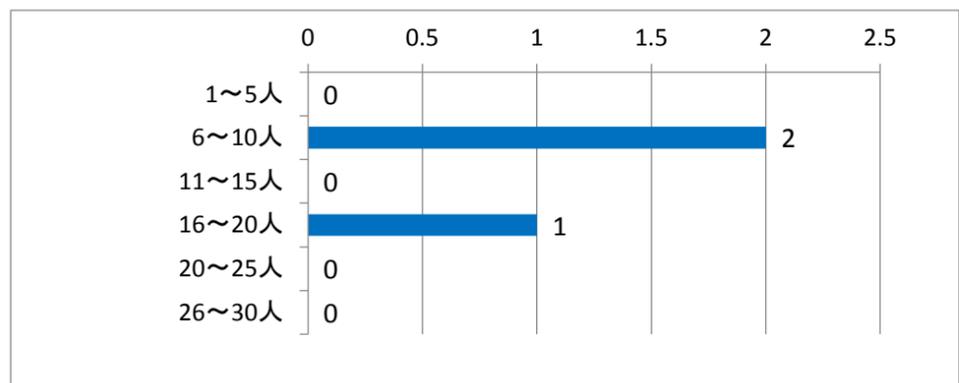
幼児(小学生未満)		
1～5人	2	館
6～10人	2	館
11～15人	0	館
16～20人	3	館
20～25人	1	館
26～30人	0	館



小学生以上		
1～5人	2	館
6～10人	5	館
11～15人	4	館
16～20人	0	館
20～25人	1	館
26～30人	1	館



年齢制限なし		
1～5人	0	館
6～10人	2	館
11～15人	0	館
16～20人	1	館
20～25人	0	館
26～30人	0	館

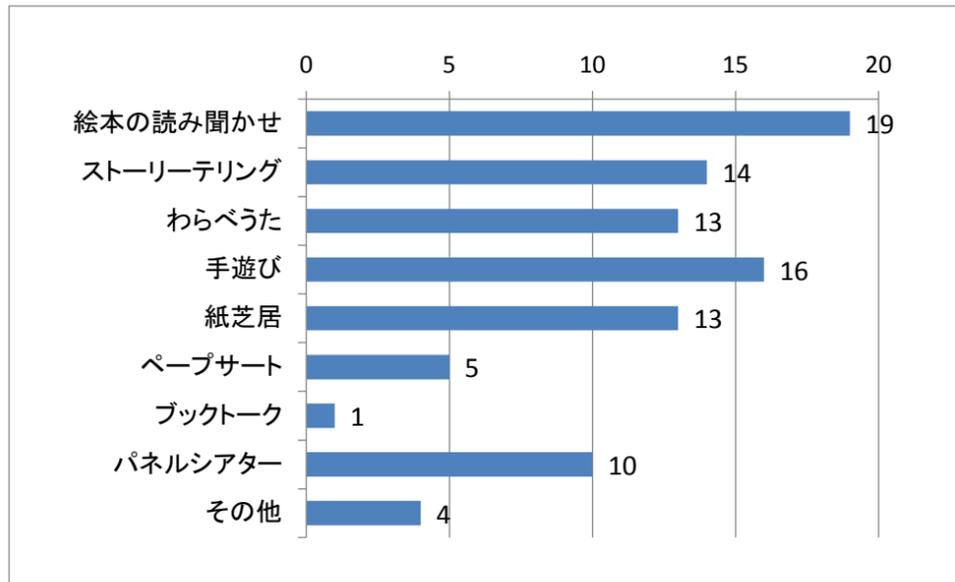


4. おはなし会の内容を教えてください。 ※複数回答

絵本の読み聞かせ	19	館
ストーリーテリング	14	館
わらべうた	13	館
手遊び	16	館
紙芝居	13	館
ペープサート	5	館
ブックトーク	1	館
パネルシアター	10	館
その他	4	館

「その他」内訳

- ・エプロンシアター:1館
- ・簡単な科学あそび:1館
- ・人形劇など:1館
- ・巻物:1館



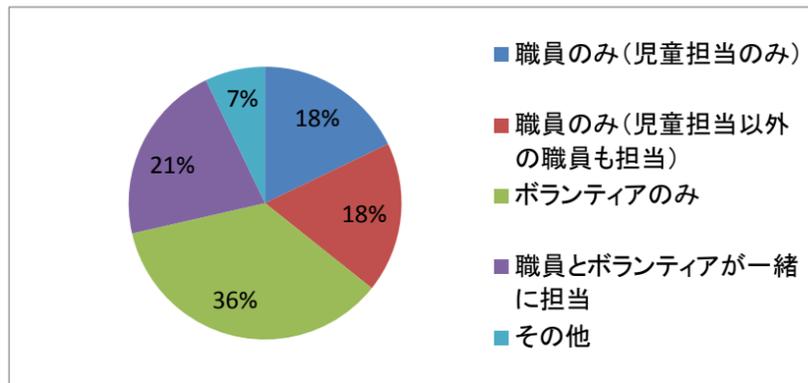
5. おはなし会の運営についてお尋ねします。

5-1. おはなし会の担当者 ※複数回答

職員のみ(児童担当のみ)	5	館
職員のみ(児童担当以外の職員も担当)	5	館
ボランティアのみ	10	館
職員とボランティアが一緒に担当	6	館
その他	2	館
合計	28	館

※その他内訳

- ・職員とボランティアが交代で:1館
- ・専門学校生が年2回担当する:1館

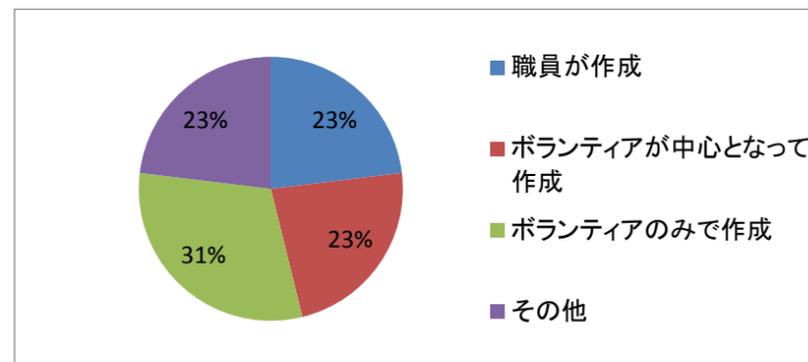


5-2. プログラム作成者

職員が作成	3	館
ボランティアが中心となって作成	3	館
ボランティアのみで作成	4	館
その他	3	館
合計	13	館

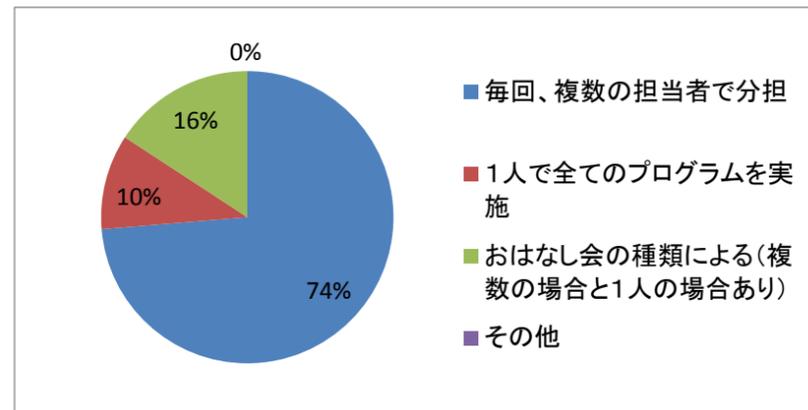
- ・月一の勉強会で共同作成:1館
- ・話し合いつつ一緒に作成:1館
- ・担当が作成(職員のことも、ボランティアのことも):1館

※「ボランティアが中心となって作成」「ボランティアのみで作成」の両方にチェックされていた回答は、両方の項目にカウントしています。



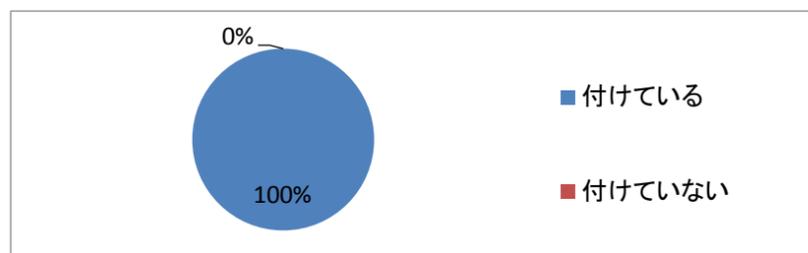
5-3. おはなし会担当者の人数

毎回、複数の担当者で分担	14	館
1人で全てのプログラムを実施	2	館
おはなし会の種類による(複数の場合と1人の場合あり)	3	館
その他	0	館
合計	19	館



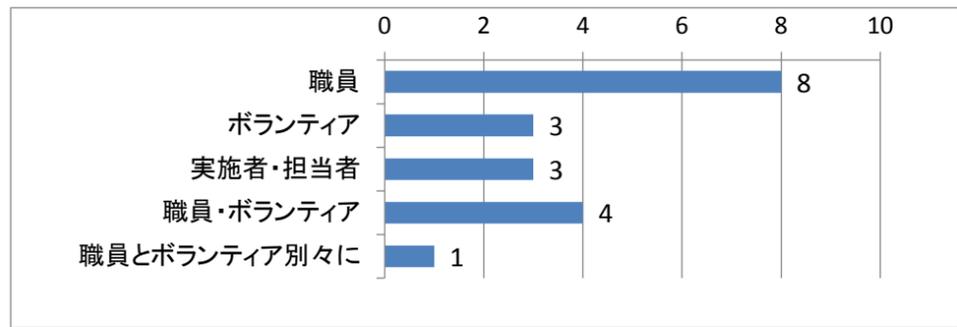
5-4. (1)記録

付けている	19	館
付けていない	0	館
合計	19	館



(2)記録者

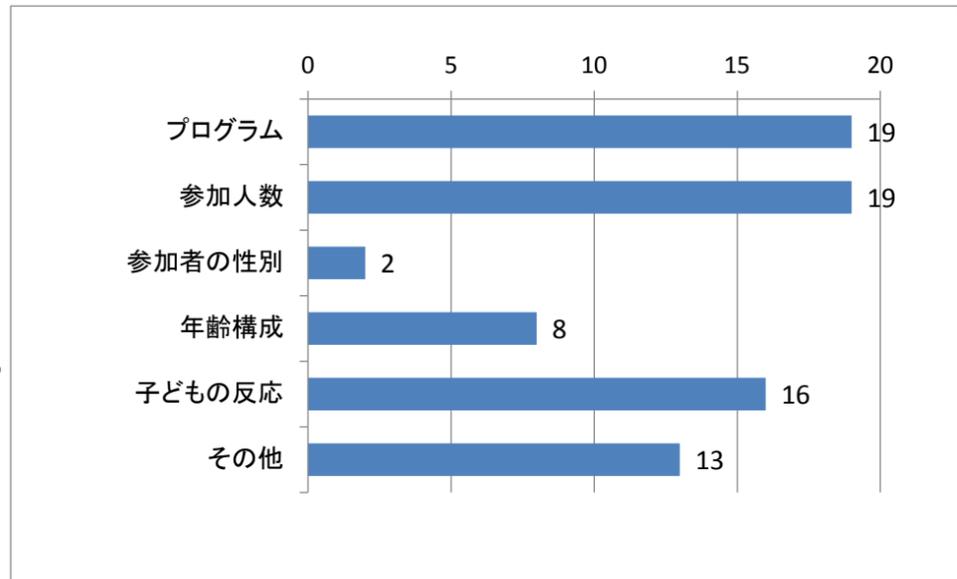
職員	8	館
ボランティア	3	館
実施者・担当者	3	館
職員・ボランティア	4	館
職員とボランティア別々に	1	館



5-5. 記録項目 ※複数回答

プログラム	19	館
参加人数	19	館
参加者の性別	2	館
年齢構成	8	館
子どもの反応	16	館
その他	13	館

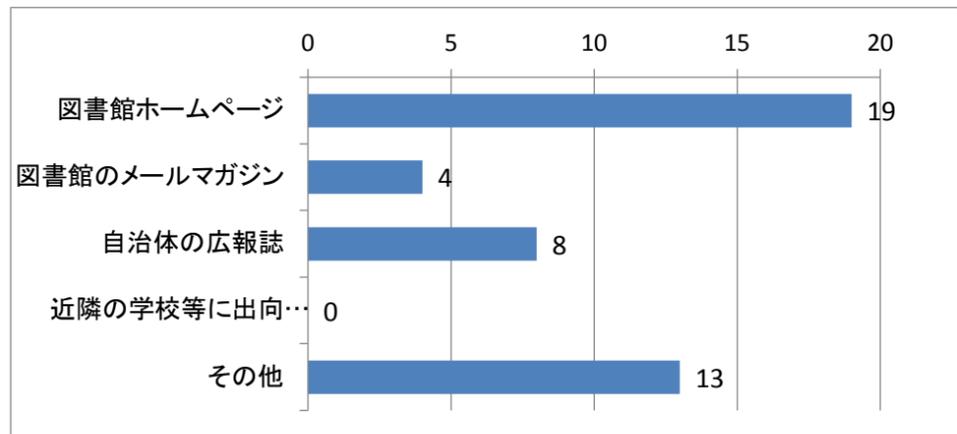
- ・天気:4館
- ・感想:3館
- ・反省点:3館
- ・時間:2館
- ・年齢構成、反応は特筆すべきことがあったときのみ:1館
- ・年齢や反応は特記事項で記録:1館
- ・絵本を読む際気をつけたいところ:1館
- ・プログラム・時間など適切だったか、語り手の様子:1館
- ・担当者氏名、日にち:1館
- ・ポイントカード記録人数:1館
- ・気付いたこと、提案など:1館
- ・著作権確認の有無:1館



※5-6、6(自由記述) ⇒別紙

7. おはなし会の広報手段 ※複数回答

図書館ホームページ	19	館
図書館のメールマガジン	4	館
自治体の広報誌	8	館
近隣の学校等に出向いてPR		館
その他	13	館



※8(自由記述) ⇒別紙

5-6. 記録の活用

検索可能な形で保存(エクセル入力など) →8館

都道府県立図書館	基本的には日誌に手書きで記入。プログラムのみ、年度毎にエクセルに入力し保存。
都道府県立図書館	エクセルに入力している
都道府県立図書館	エクセルに入力して毎月人数等を集計し、担当で回覧、ファイリングしてプログラム組立や子どもへの対応の参考にする。また、保護者や市町村立図書館職員、ボランティア等の参考となるようプログラムのみ当館ウェブサイト上に公開している。
都道府県立図書館	エクセルに入力するとともにファイリングもして、次年度のオリエンテーションや勉強会で活用している。
都道府県立図書館	記録用紙はファイリングしプログラム作りやおたよりの作成、勉強会に活用している。エクセルに読んだ本を入力しリスト化している。リストはボランティアにも配布している。
市区町村立図書館	エクセルに入力して、データを蓄積する。また紙でも保管し、本館だけでなく分館や地域図書室との情報共有もしている。
市区町村立図書館	直後に手書きの記録を作成、後日エクセルに入力、ファイリングしておいてプログラムを組み立てる際の参考に使っています。
市区町村立図書館	・ファイリング ・エクセル入力

検索不可、あるいは不明(紙でファイリングのみ、など) →12館

都道府県立図書館	職員が担当する乳幼児向けの会の記録は、ノートに記入し、今後の参考に使っている。その他ボランティアが担当する記録は、記録票に記入しファイリングして今後の参考に使っている。
都道府県立図書館	基本的には会ごと(※)のノートを作成して記入している。プログラムを組み立てる際の参考に使っている。一部プログラムを当館発行の機関誌で紹介したり、当館が主催する養成講座の事例として活用している。(※事務局注:4種類の異なるおはなし会を運営されています。)
都道府県立図書館	ファイリングして、会の内容の確認やボランティア団体と図書館の連絡に使用している。
都道府県立図書館	ファイリングしておいてプログラムを組み立てる際の参考にする。
都道府県立図書館	ペーパーでファイリングし、プログラムを組み立てる際の参考にする。
都道府県立図書館	年度ごとにファイリングし、プログラムを組み立てる際の参考や、翌年度のおはなし会実施計画の参考にする。
市区町村立図書館	年齢別のおはなし会ごとにファイルを作り、児童カウンターで保管。プログラムを作成する職員やボランティアが参考に使っている。
市区町村立図書館	ファイルしておいてプログラムを組み立てる際の参考にする
市区町村立図書館	ファイリングしているが、特に活用はしていない。
市区町村立図書館	ファイリングしておいて、プログラム組み立てに役立てたり、運営上の申し送り事項などを職員間で共有している。また、前月の日誌(記録)をまとめたものを毎月の勉強会でボランティアさんに配布している。
市区町村立図書館	ノートに手書きで記入して保管している。いつでも過去のおはなし会のプログラムを見ることができる。配ったプログラム、ポスター、チラシも作った工作、わらべうたや手あそびの楽譜もつけている。
市区町村立図書館	ファイリングしていて、プログラム構成などの参考にする。

6. 参加意欲を高める工夫

<主なご意見>

- ・スタンプカードを発行し、参加回数によって賞品や賞状等を贈ったりする
- ・特別なおはなし会時にプレゼントを贈る
- ・次回開催のお知らせ
- ・その他(プログラムの配布、手遊び、お土産)

都道府県立図書館	スタンプカードを発行、12回以上参加した子にプレゼント(ポストカード)を贈っている
都道府県立図書館	プログラムの配布
都道府県立図書館	外国語によるおはなし会では、参加してくれたお礼として、次回開催日を書いた小さなカードを手渡している。かわいいシールなど貼っているので喜ばれている。
都道府県立図書館	ポイントカードを発行し、10回参加した子にプレゼントを渡している。
都道府県立図書館	しおりや工作をプレゼントすることもある 夏休みや冬休みのおたのしみ会は、参加者全員にプレゼントを配布する
都道府県立図書館	スタンプカードを発行 次回チラシの配布
都道府県立図書館	季節に合わせた手遊びを、何回か連続して行う。(上達して楽しくなる)折り紙や手作りのマスコットなどを時々お土産として渡している。
都道府県立図書館	乳幼児向けのおはなし会ではスタンプカードを発行しているが、乳幼児向け以外では無い。
市区町村立図書館	おはなし会カードを作成し、参加した回にシールを貼っている。
市区町村立図書館	6月と12月の参加者にプレゼント(菓子・文具など)を贈っている。
市区町村立図書館	通年でスタンプカードを発行、カード1枚(①が18回、②が10回)埋まった子にプレゼント・しおりを贈っています。 8月の「小学生のための怖いおはなし会」では全3回中1回参加で館内でつくったこわいおはなしの本を、2回でバックを、3回で賞状を贈っています。
市区町村立図書館	スタンプカードの発行。10回参加した子にプレゼント。
市区町村立図書館	スタンプカード 一枚毎に プレゼント
市区町村立図書館	スタンプカードを発行していて、10回単位にプレゼント。職員の手作りのものを贈っている。

8. その他、おはなし会の運営について、日頃悩んでいることや意見交換してみたいこと

<主なご意見>

- ・ボランティアとの関係について(育成、取りまとめ等)
- ・参加者の低年齢化
- ・参加者の減少(特に小学生について)
- ・職員の研修、スキルアップの機会が確保できない
- ・絵本等の選書、選定基準について
- ・図書館でのおはなし会の意義、位置づけ
- ・その他(保護者マナー、貸出に結びつかない)

都道府県立図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館とボランティア、ボランティア同士の関係 ・スキルアップの方法 ・選書 ・図書館においてのおはなし会のあり方(図書館ではない場所でのおはなし会との違い)
都道府県立図書館	以前より参加者が減っているため、他の図書館の状況を知りたい。曜日や時間帯の設定について、検討したことがあるか伺いたい。
都道府県立図書館	毎日読み聞かせを行っているため当番表を作成している。職員が休んだりした時など、緊急の場合の対応が大変。また、担当で集まれる時間が少なく、職員の研修機会を確保することが難しい。 小学生対象のおはなし会等で、成功したイベント例があれば教えてほしい。
都道府県立図書館	幼児～小学校低学年向け、小学生向け、外国語によるおはなし会での参加者の低年齢化の傾向がここ数年見られる。もう少し大きい子たちに参加してもらえるにはどうしたらよいか悩んでいる。
都道府県立図書館	おはなし会を司書とボランティアの協働で進めることの難しさを感じている。とくに経験の長いボランティアをどのように活用し、取りまとめるかなど課題も多く、年々図書館側でのイニシアチブがとりにくい状況になってきている。
都道府県立図書館	参加者が低年齢化し、ある程度の分量のある絵本を扱いにくいこと。 ボランティアとの意思疎通が難しいこと(オリエンテーションや年に一度の勉強会ではこちらの考えが伝わらない)。
都道府県立図書館	幼児向けのおはなし会では、参加者の多くは乳児である。小学生向けのおはなし会では、参加者の多くが幼児である。夏休みを除いて小学生の参加者が少ない。
都道府県立図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・年々、参加者が低年齢化していること。特に下の年齢は区切っていないが、ストーリーテリングの会に乳幼児が入って聞けずに騒いだり、年齢層が広すぎて、全員が楽しめるプログラム構成にすることが難しい。 ・参加者のマナーが低下していること。子どもが許容範囲を超えて騒いだり歩き回って、会の進行を妨げても、同伴の保護者に注意してもらえないこともある。
都道府県立図書館	参加年齢が低くなっている。保護者と参加児童の分離ができない。
都道府県立図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が減少傾向にあること。小学生中学年以上への呼びかけが課題となっている。 ・ボランティアの方がプログラムを作成するため、絵本の選定基準があいまいになりがちである。
市区町村立図書館	赤ちゃんおはなし会は大変にぎわうのですが、年齢が上がるごとに参加者が少なくなります。小学生向けのおはなし会などで内容などの工夫をされている館がありましたら教えて頂ければと思います。
市区町村立図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティアの育成 ・子どもたちの参加が少なくなった
市区町村立図書館	今のところ運営はボランティアさんにお任せしているのですが、ゆくゆくは私も参加したいので、今回のワークショップで、いろいろと学ばせていただきたいと思っています。
市区町村立図書館	当館ではボランティアさんとの勉強会を図書館主催で毎月1回(2時間程度)行っているが、他館ではどうか?その内容について知りたい。当館の勉強会の内容は、おはなしの実習と次月のおはなし会のプログラム作成が主で、それだけで2時間があったという間に終わってしまう。これ以上のもの(内容・時間)が必要か検討中なので。
市区町村立図書館	<p>①参加者が少なくなっています。子どもの帰宅時間が遅くなっており間に合わない、子どもだけで図書館に来られない等の問題の他、読み聞かせボランティアも増え、書店等でも実施される今、公共図書館に対するおはなし会の要望は以前より減っていて、現在おはなし会に割いている時間の何割かを、他の児童サービスにシフトしていく必要があるのではないかと感じています。</p> <p>②おはなし会で紹介した本を複数冊用意していますが、近年あまり貸出に結びついていません(しばらく置いているとおはなし会に参加していない方が、借りていきます)。かつては読んで面白かった本は飛ぶように貸し出されたものでした。何か改善すべき問題があると思ったほうがよいでしょうか。</p>